

<http://www.chunichi.co.jp/earthquake/>

毎月1日は東海地震特集

進む次世代育成

高校生を防災のリーダーに育てるセミナーが名古屋
市千種区の名古屋大で開かれている。東海、東南海、
南海地震が連動して同時発生する恐れが強まり、そう
なると20～30年後が危ない。セミナーはそのところに社
会の中心で活躍している高校生に防災知識を身につけ
てもらおう狙いだ。各地でも将来を担う世代の育成が始
まっている。
(中村慎一郎、浅井俊典)

備える その93「防災リーダー」



セミナーに参加する高校生ら＝8月9日、名古屋千種区の名古屋大で

セミナーに参加して
いる愛知県内の高校十
五校の一年生七十五人
に、講師が訴えた。
「本気で災害の被害が
大きいときには、消防
や警察だけでは助け切
れません。高校生た
ちが手元の資料に目を
通しながら、大きくう
なずいた。
「地震って何とかな
ると思っていましたけ
ど」。片岡佳奈さん
(県立高蔵寺高)がそ
う話す。佐古一貴君
(同)は「被災者の体
験談を聞いて身近な問
題だと感じた」と言
う。
横山静香さん(県立
一宮西高)は「誰かが
助けてくれると思って
いたけど、そういう意
識じゃ危ない」と、何
かを考えた様子。そ
して中原理絵さん
(同)が強調する。
「防災知識があるかな
いかで、自分や人の命
を守るかどうかが大
きく変わる」
セミナーは県教育委
員会と名大が主催し、
七月二十六日から十二
月二十四日までの間に
五日間を予定。高校生
は被災者の体験談を聞
いたり、災害時の行動

未来担う高校生に照準

の仕方を含んだら
る。来年は高校生たち
がそれぞれ地元に戻
り、セミナーの内容を
基に学校の仲間や地域
住民らに防災や現在を
訴えていく段取りだ。
セミナーの対象を高
校生にしているのは
大きな理由がある。も
し、三地震の同時発生
が二一三〇年後とす
れば、現在の高校生や
大学生たちが若者が三
十代、四十代となってい
る。中心となつて日本
を支える世代になつて
いるわけだ。
「社会を担う人たち
に準備がなければ、将
来、壊滅的な大地震が
来たとき復興するのは
困難」。セミナーの講
師を務める名大大学院
環境学研究所の福和伸
夫教授は警鐘を鳴ら
す。
また、将来の備えだ
けでなく、別の狙いも
ある。もし大地震が今
起きて、大人は家族
の安全確認や会社の立
て直しに追われてしま
う。その点、高校生や
大学生は自由がきく。
「災害の復旧作業の時
には、高校生が一番
戦力となつてくれる。役割は重要だと言え
ずだ」(福和教授)とうた。

愛知県日進市の県立日進高校
は、防災に熱心に取り組んで
いる学校として全国的にも知られ
ている。二〇〇五年度から始ま
った防災教育は本年度ですでに
六年目を迎えている。
防災教育担当の外山恵子教諭
が、防災の計画を立てて進
めている。防災サバイバル体験
や災害弱者車いす体験など、催
しがあるたびに参加者を二十人



愛知・日進高

地図上の防災訓練をする生徒ら＝8
月5日、愛知県日進市の日進高校で
ほぼ募集。全校生徒約四百人が
何らかの形で防災活動にかかわ
っているのが日進高の特徴だ。
過去には防災への注意を歌い
踊って呼びかける「防災サン
バ」を作詞し披露。防災ミュー
ジカルは「はるかひまわり」も
上演し、防災かるたを作ったこ
ともある。
日進高が目標とするのは、生
徒が災害を生き残るだけでなく
、支援や救助に携わることが
できることだ。
外山恵子教諭は「何か起っ
たときに行動できるようにとや
ってきました。一度もやったこ
とがなければ、何もできませ
ん」と説明する。
八月五日午後、夏休みの登校
日に二十人の生徒たちが学校
の図書室に集まっていた。大雨
で洪水になった後に大地震が起
きたという想定で地図上の避難
訓練だ。

全生徒がかかわる

参加していた伊藤小春さん
(三年)は防災教育で地震の恐
ろしきを知った。自宅では家具
に滑り止めを貼っているが、それ
は学校の防災教育後、家族に家
具の滑り止め、やってくる」と
声をかけた結果だ。
学校には防災教育に参加して
みようという空気が自然に漂
う。丸山幹太君(二)は「今日も
何となく、参加しようか」とい
う雰囲気だったから来ました。
防災教育では、地域の人も触
れ合える面白さ」と話す。
日進高の防災教育が評価
され、日進高には二〇〇八年度
に県防災局が感謝状を授与。一
〇年度には県教委の「高校生に
よる学校安全なわらの実践」で
優秀賞を受賞した。
外山恵子教諭は「大地震がや
ってくる以外に、生徒に
何かをやり学んだ体験を味わっ
てもう一つは当初からの目的
でした。日進高からすでに、
多くの防災リーダーが巣立つて
いる。

名古屋大などがセミナー

師も務める名大大学院
環境学研究所の福和伸
夫教授は警鐘を鳴ら
す。
また、将来の備えだ
けでなく、別の狙いも
ある。もし大地震が今
起きて、大人は家族
の安全確認や会社の立
て直しに追われてしま
う。その点、高校生や
大学生は自由がきく。
「災害の復旧作業の時
には、高校生が一番
戦力となつてくれる。役割は重要だと言え
ずだ」(福和教授)とうた。

被災者支援活動も盛ん

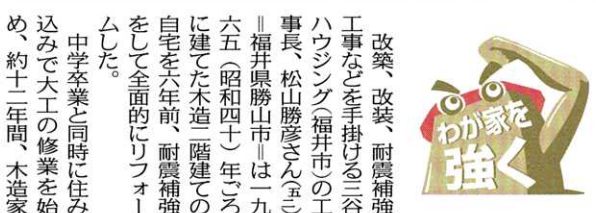
神戸・舞子高環境防災科



水害現場で土砂の撤去作業をする生徒たち＝
昨年8月、兵庫県佐用町で(舞子高校提供)

地震の仕組み、救助法学ぶ

起る仕組みや災害へ
の備えを専門的に教え
る県立高校がある。神
戸市舞子区にある舞子
高校環境防災科だ。防
災教育に特化した学科
があるのは、全国でこ
こ一校だけという。
「環境防災科といっ
ても将来、大学教授に
なるような専門家を
養成することが目的で
ありません。災害が起
ったとき地域でリー
ダーシップをとれる人
材を育てることが狙い
です。教頭の秋宗英生
さん(五)はこう語る。
根底にあるのは阪神
大震災の教訓だ。震災
の直後は被害が激し
く、すぐに消防が駆け
つけてくれた地域はこ
ろが、ほとんどは新
潟県中越沖地震や、



松山勝彦・三谷ハウジング工事長 (勝山市)

「けた」に金物取り付け
基礎や他の部材を支える
「けた」と呼ばれる部材
に補強金物を取り付け
た。ほぼすべてを自分で工
事したため、耐震補強の
費用は材料費のみだつた。
「業者に頼めば二倍
万が一の被害が、補助
制度もある。家の大き
さや壁の種類によっても
と安くなるケースも
ある」と解説してくれ
た。
現在は妻と娘三人、義
母との六暮らし。六年



全面的なリフォームに伴い、耐震補強した
松山勝彦さん宅の外観＝福井県勝山市で

「けた」に金物取り付け
基礎や他の部材を支える
「けた」と呼ばれる部材
に補強金物を取り付け
た。ほぼすべてを自分で工
事したため、耐震補強の
費用は材料費のみだつた。
「業者に頼めば二倍
万が一の被害が、補助
制度もある。家の大き
さや壁の種類によっても
と安くなるケースも
ある」と解説してくれ
た。
現在は妻と娘三人、義
母との六暮らし。六年

くわすか。ほとんどは新
潟県中越沖地震や、